

学校だより しらかわ

いきいき なかよく ほこりを持って



飯豊町立添川小学校
2019. 2. 14
第19号

1日入学を行いました



まってるよ!

去る2月4日（月）、2019年度入学予定の子ども達と保護者の方々を対象に、「1日入学」を実施しました。学用品・運動着販売のあと、保護者の方々に、入学までにできるようにしてほしいことや生活習慣、親としての関わり方、準備物などについて説明させていただきました。子ども達は、5年生と一緒に「紙飛行機飛ばし」「おにごっこ」などをして、楽しいひとときを過ごしました。

よく、名前が書けない、本が読めないなど心配しておられる保護者の方もいらっしゃいますが、そういう学習に関することは、入学後身に付くので大丈夫です。「名前を呼ばれたら返事をする」「挨拶ができる」「一人で用便ができる」「着替えができる」「好き嫌いなく食べられる」など、生活に必要なことができれば十分です。例えうまくできなくても、学校で練習すればできるようになります。あわてて、「今から身に付けさせなくては」と子どもを追い込むのは逆効果です。同じ学年でも発達段階に差があります。学校では、個々の実態を把握しそれぞれの子に必要な指導を計画的に行います。



誕生から小学校入学までの子育ては、親として大変だけれど楽しい幸せな時間です。そして、小学校への入学を迎えるとき、我が子の成長を実感し、喜びや達成感を感じるものです。添川小学校では、職員も子ども達も新しい1年生の入学を心待ちにしています。

3月の予定 (始業式は4月4日、入学式は5日です。)



1	金	6年生を送る会	11	月	いのちの日	21	木	春分の日	
2	土		12	火		22	金		
3	日		13	水		23	土		
4	月	身体計測・農地水講話	14	木	呼びかけ全体練習	24	日		
5	火		15	金		25	月		
6	水	職員会議	16	土	添川読書の日・飯豊中卒業式	26	火		
7	木	ALT	17	日	修了式・連絡票・式準備・練習	27	水	お別れ式	
8	金	卒業式練習	18	月	卒業式	28	木		
9	土		19	火	年度末休業	29	金		
10	日		20	水		30	土		
						31	日		

年度末・年度初め休業
は4月3日まで。

真面目だからこそかっこいい！

徒歩で登校してくる班の4・5・6年生は、登校するとすぐ児童昇降口にランドセルを置き、スコップやスノーダンプを持って、昇降口前の階段の雪を片付けてくれます。

1月のある日のことです。いつものように雪が降り、高学年の子ども達が雪片付けを始めました。すると、2年生の女の子が「校長先生、私も雪かたづけしたい」と訴えてきました。「じゃ、小さいスコップがあるから、お手伝いしてくれる？」という大喜びで外に出て雪片付けを始めました。同じ通学班の子も加わり、1年生も加わって一生懸命に、楽しそうに作業しています。1年生や2年生も「誰かの役に立ちたい」という気持ちで行動できること、嬉しい限りです。

6年生はそんな1・2年生を気遣うように一緒に作業を進め、やり方を教え始めました。寒い朝でしたが、何だか心が温まるような風景でした。



なぜ、1・2年生は雪片付けを買って出たのでしょうか。それは、いつも雪片付けしている高学年の姿を見て「かっこいい」「あんな風になりたい」という気持ちがあるからだと思います。私も一緒に作業していますが、高学年の子ども達はいつも真面目に作業をしています。ふざけたり、遊んだりする子は誰もいません。それをかっこいいと感じた2年生の感性も、2年生にそう感じさせた高学年の行動も本当にすばらしいと思いました。

1・2年わくわくスノーランドへ



1月23日(水)1・2年生が生活科の学習で、飯豊少年自然の家に出向き、チューブ滑り体験をしてきました。自然の家では、夏の間第2駐車場として使っているスペースに、雪を敷き詰め段差を埋めて、チューブ滑りを楽しむことができるコースを作っています。使うチューブは、車のタイヤ用で、数種類のサイズを用意しています。くるくる回転しやすく、適度な滑り具合で、安全な用具です。一人で乗ったり、友達とペアで乗ったりもできますが、連結すれば多人数で滑ることもできます。この日は、最大15人で一気に滑り降りました。「キャー!」「楽しい!」野山に子ども達の歓声が響きました。「次は3人で乗ろう」「みんなでつながって滑ろう」などと自然に会話も生まれます。特に技術も必要なく、スピード感や爽快感を味わうことができますし、感動を友達と共有できるところも魅力です。滑るためには坂を上らなければなりませんが、子ども達は滑りたくて仕方ないので愚痴も文句も言いません。黙々と登ってきます。かなりの運動量も確保でき最高です。私たち大人は、雪の「大変さ」「つらさ」ばかり感じてしまっていますが、子ども達には、雪の楽しさ、素晴らしさを感じてほしいと思っています。

